

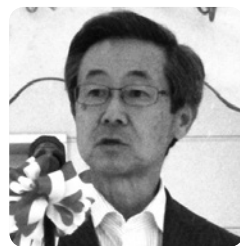
関係者のテープカットに続き、式典用トラックが拍手で送られました（JA飛驒ミート・八日町）



今までのアジア市場の開拓に力を入れてきた経緯を話し「昨年に続

来賓の古田肇岐阜県知事は、

Uの輸出衛生基準を満たした食肉処理施設であることを報告。「今後も世界最高峰の食肉センターとなるべくまい進したい」と話し「当地域は昨年、過去最高の外国人宿泊者数もあり、多くの方が飛驒牛を味わったと思います。今回の認定により一層躍進したい」とあいさつしました。



出発式でJA飛驒ミートの駒屋廣行代表理事会長は、同施設がE



県内の生産農家で組織する岐阜県肉牛協会の辻直司会長は「輸出

は皆様のおかげ。農家として感謝しています。これからも信頼されるよう努力を怠ることなく、一人でも多くの方に飛驒牛を味わってもらいたい」と語りました。

なお、EUに第1弾として約100kgが出荷され、ロンドンやパリなどに届けられました。

EUは平成25年に和牛輸入を解禁。輸出にあたっては衛生管理や食肉検査など、EU独自の認定基準をクリアする必要があります。この基準を満たしている認定施設は現在、九州に2カ所、群馬に1カ所あり、今回のJA飛驒ミートで国内4カ所となりました。

	輸出量(トン)
平成23年度	1
平成24年度	2
平成25年度	10
平成26年度	16

牛肉輸出の現状
飛驒牛の輸出は平成22年、同ミートが香港輸出を認定されてから開始（詳しくは3ページ）。平成26年度には16tの輸出量がありました。

飛驒牛の欧州連合(EU)向け輸出が始まるのを前に7月8日、飛驒ミート農業協同組合連合会(JA飛驒ミート)で初輸出を祝う出発式がありました。飛驒牛の輸出は現在、大半が香港向けで、今回のEU市場への進出により、世界ブランドへの飛躍が期待されます。

飛驒牛、欧州連合(EU)へ初輸出